

新型コロナワクチン接種後の心筋炎関連事象について～小児科医への情報提供

2021年10月29日

日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会

2021年10月22日の首相官邸の公表によると、2021年2月17日から始まった新型コロナワクチン（以下、ワクチン）の総接種回数は1億8,334万4,047回となった。12～19歳への接種は、同年10月18日公表時点で1回以上接種者562万8,624人、2回接種完了者363万7,620人で、それぞれ12～19歳人口の62.47%、40.37%を占める。

接種が先行していた海外から、若年男性のmRNAワクチン2回目接種後に、心筋炎関連事象の発生率が高いことが報告された。また、その臨床経過については多くが軽症であることも報告されていた。

国内でも頻度は稀ながら、10代および20代の男性への接種において、ワクチン接種後2日目をピークとして数日以内に心筋炎関連事象（心筋炎・心膜炎）の発生がその他の年代の男性や女性に比較して多いことが明らかとなった（表1、表2）。

表1 年代別・性別・製造販売企業別心筋炎関連事象発生報告数・100万人接種あたりの発生頻度

	年齢 歳		10-19		20-29		30-39		40-49		50-59		60-69		70-79		80-		不明/その他	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
ファイザー	報告件数 例	～10/3	7	4	20	3	8	6	8	6	5	11	15	10	16	10	8	15	3	5
		～9/12	2	2	19	3	6	4	6	4	4	10	13	8	15	7	8	14	2	2
	100万人接種あたり	～10/3	3.69	2.17	9.62	1.11	2.76	1.64	1.72	1.04	0.96	1.77	2.49	1.50	2.36	1.25	2.04	2.21		
		～9/12	1.87	1.94	13.08	1.45	2.88	1.45	1.65	0.83	0.87	1.77	2.21	1.22	2.23	0.88	2.06	2.08		
武田/モデルナ	報告件数 例	～10/3	13	0	47	2	8	4	8	4	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0
		～9/12	7	0	26	1	4	3	4	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	100万人接種あたり	～10/3	28.83	0.00	25.65	1.35	4.39	3.24	3.79	2.82	1.13	1.74	2.95	2.18	0.00	0.00	0.00	0.00		
		～9/12	21.60	0.00	17.06	0.79	2.57	2.81	2.10	0.77	1.18	0.90	1.51	2.25	0.00	0.00	0.00	0.00		

（第71回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和3年度第20回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）：2021年10月22日開催資料より抜粋）

表2 接種から心筋炎発症までの日数～製造販売企業からの報告 2021年10月3日現在

新型コロナワクチン（ファイザー）	合計報告数（人）	合計報告症例数（件）	接種から発症までの期間別報告数（件）															
			0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8-14日	15-21日	22-28日	29-90日	91-180日	不明	発症後経過	
心筋炎	112	113	10	10	14	9	7	2	1	2	7	11	3	2	1		34	

新型コロナワクチン（モデルナ/武田）	合計報告数（人）	合計報告症例数（件）	接種から発症までの期間別報告数（件）															
			0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8-14日	15-21日	22-28日	29-90日	91-180日	不明	発症後経過	
心筋炎	82	151	1	12	24	17	12	1		2	2	4	5	21			50	

※1 報告に複数の症状があった場合は、該当する症状にそれぞれ集計。

※同じ種類のワクチンを複数回接種した場合は、各接種日から発症日までの期間にそれぞれ集計。

（第71回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和3年度第20回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）：2021年10月22日開催資料より抜粋）

一方、国内で新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）と診断され入院した症例のうち、2021年9月28日時点で集計可能であった49,321人において、感染者100万人あたりの心筋炎関連事象者数は男性923人、女性702人と報告された。このうち、10～29歳の男性100万人あたりの心筋炎関連事象数は893人（0.09%）であった（第71回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和3年度第20回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）：2021年10月22日開催資料より引用）。

以上のことから、2021年10月22日に開催された厚生労働省の部会・調査会において、「10代および20代の男性に接種するにあたっては、ファイザー社ワクチンに比べて、モデルナ社ワクチン接種後の心筋炎関連事象が疑われる報告頻度が明らかに高いことから、十分な情報提供の上、ファイザー社ワクチンの接種も選択できることとする。なお、本人がモデルナ社ワクチンの接種を希望する場合は、COVID-19感染症に合併する心筋炎関連事象の発生頻度よりは低いことから、接種可能のままとする。」とまとめられた。

10代および20代男性にワクチン接種する際には、接種後特に数日間は無理をせず、激しい運動は避け、また、胸痛、息切れ、動悸等の症状が認められた場合は、速やかに医療機関を受診するよう情報提供する。そしてこれらの症状を訴えて受診した患者には、ワクチン接種歴を聴取するとともに、心筋炎・心膜炎を疑った病歴聴取、身体所見、検査（心電図、血中の心原性酵素、心臓エコー検査など）などが必要である。